

河川砂防技術研究開発公募(河川技術分野)平成21年度採択テーマ

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
XバンドMPLレーダと雲解像モデルによる短時間・極短時間量的降水予測法の開発(研究期間:H21年~H24年)	名古屋大学 坪木 和久	A
<p><研究概要> ゲリラ豪雨は分単位で急激に発達する積乱雲によってもたらされる。その発生をとらえることは困難であり、予測のためには雲の詳細な構造を計算することが必要であるので、これまで予測はほとんど不可能であった。本研究では時空間的に高解像度のXRAINの観測値を雲解像モデルCReSSに取り入れることで、豪雨の高精度量的短時間予測システム(XRAIN-CReSS)を開発した。これにより100mm毎時を超える豪雨の3時間程度先までの予測実験に成功した。また、XRAINの観測値から、降水量の精度よい推定や雲内の粒子判別を行う技術を開発した。</p>		
<p><事後評価コメント> XバンドMPLレーダの観測データを気象予測数値モデル(雲解像モデルCReSS)に同化することで、豪雨予測のスレットスコアや空振り率が向上するなど予測精度が改善されることが示されている。また、今回開発された短時間予測システムは実際に運用可能な段階に達しており、研究目的は達成され、十分な研究成果があったと言える。 今後はここで得られた成果を洪水予測に応用するとともに、土砂の力学分野など降雨予測以外の分野とも協同で研究が進むことが期待される。</p>		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとはいえない